

# 永く継承される伝統芸能へ

## 神舞奉納

10月26日（日）、都萬神社において、『神舞』が奉納されました。

同神社の神舞は、戦時中より長い間途絶えていましたが、『大崎伝統芸能神舞保存会』（会長・小屋健二さん）が中心となり、約2年の歳月をかけて準備・練習を重ね、平成22年に町商工会青年部員により神舞4段（弓舞・四人鬼神舞・薙刀舞・田之神舞）が復活・奉納されました。

奉納に先立ち、同保存会会長が、「発起人である故中野孝喜さんが都萬神社の御祭神である『コノハナサクヤヒメ』に恋い焦がれ、約2年の歳月をかけ、平成22年に復活させてから今回で5回目の奉納となります。今回は商工会青年部、町青年団、役場若手有志、大崎小学校の児童の協力で昨年より神舞1段が増え、11段の奉納を行います。また、演者はもちろんのこと、衣装や道具づくりなど多くの人たちに支えられ開催できることに対し感謝申し上げます。」と挨拶されました。

舞台では、神舞奉納の前に、町青

年団太鼓グループ『鼓舞』による演奏と二人の巫女による五穀豊穰を神様に感謝し、さらなるご加護くを祈念する『豊栄乃舞』が舞われた後、『小鬼神舞』や『杵舞』『田之神舞』など勇壮な神舞、11段を次々と奉納しました。

また、今年から加わった『金山氏舞』では、金山・鉾山を司り、金属に関する技工を守護するとされている神で、日本神話に登場する神様とされている金山彦神が氏のことが好きになり『ホホーイ』と威勢よく求愛するが見向きもされずに振られてしまったために、方角も分からなくなるくらい怒り、荒れ狂う、静と動が織成すこっけいな舞と優雅な舞で、観客を魅了していました。

境内では、保存会メンバーの迫力ある神舞に歓声や拍手が起こつたり、時には笑い声など観客からは食い入るように入見つており、大勢の観客に見守られながら、神舞奉納は幕を閉じました。



大崎伝統芸能神舞保存会の皆さん

